

聖書

聖書は、創造者なる神の「知恵、知識、真理の宝庫」

「直ぐな心で（ヨシエル）」、聖書に向かう者は多くの宝を見つけ、何よりも神に出会う

詩篇119：7、エペソ人6：5「真心から」、マタイ13：44-46

しかし、深く知ること「知識」をどれほど積んでも、信じ委ねる「信仰」には至らない

- ②ダイナミックな多角的、立体的構造：背後に神意 [偶然はない]
全聖書の構成の焦点は、人類の救い主イエス・キリスト
- ④聖書自体が成就を証しする真の神の預言：聖書が聖書を解釈
神の約束の確かさ、成就の確かさ（ご自身の言葉に真実な神）
- ⑥究極的に立証される神のすべての言葉
キリストご自身が神のご計画の「しかり」、アーメン

使徒パウロの宣教

その25

『コリント人への手紙第二』8-10章

8章

与える恵み

☆「主イエスご自身が、『受けるよりも与えるほうが幸いである』と言われたみことばを
思い出すべき」

→使徒の働き20：35

☆パウロ、異邦人をユダヤ人に対する「債務者」とみなした

→ローマ人15：25-28

献金

☆パウロ、書簡の中で九つの異なった言葉を使用

☆一番頻繁には「恵み」

：2「…彼らの満ちあふれる喜びは…その惜しみなく施す富となったのです」：

*大きな苦悩と極度の貧しさ+恵み=あふれるばかりの喜びと大きな自由！

→信仰生活に往々にして伴う逆説

：3-5「…聖徒たちをささえる交わりの恵みにあずかりたいと…」：

*マケドニアの教会、パウロの奨励を必要としなかった

*主に従い、献げるとは？

自分の人生はおろか、自分自身でさえ、自分の所有ではないと知って生きること

：6「…テトスがすでにこの恵みのわざをあなたがたの間で始めていたのですから…」：

*見落としてならない救いの一面：神による完成

：7「あなたがたは…この恵みのわざにも富むようになってください」：

*コリントの人々、御霊の賜物に夢中、神の恵みを実践に移さない不履行の状態にあった

：9「あなたがたは、私たちの主イエス・キリストの恵みを知っています…」：

*キリスト、奉仕、苦難、犠牲…の完全なお手本を示してくださった

天上と地上の大きな違いを除いてくださったキリスト

1. 女から生まれたキリスト → 私たちが神から生まれるため
2. ご自分を卑しくされたキリスト → 私たちが高く引き上げられるため
3. しもべになられたキリスト → 私たちがキリストの共同相続者とされるため
4. 拒絶されたキリスト → 私たちが神の家族に受け入れられるため
5. ご自分を否定されたキリスト → 私たちが自由にされるため
6. ご自分を犠牲にされたキリスト → 私たちを祝福してくださるため

聖書

: 10-13 「この献金のことについて、私の意見を述べましょう…」 :

- * 約束と履行の違い
- * 約束履行の遅延は、教会の乏しい霊的状态を露呈
- * 信徒に注がれる神の霊的祝福は、祝福を求める人たちに、与えることを動機づける
- * 共産主義に反対する明確な声明
- * 共産主義も社会主義も、本来個人が所有できるものを社会、政治体制の名の下に取り上げるので、略奪、窃盗の一形態

: 14-15 「今あなたがたの余裕が彼らの欠乏を補うなら…書いてあるとおりです」 :

- * パウロ、キリストの全教会が一つ、一体であると、認識
- * パウロ、すべての人に必要量が分け与えられた「マナの奇蹟」を神の原則として適用
→ 出エジプト記16 : 16-18
- * 信徒の原則 : 日ごとに必要な食物を主に求める

お金を扱う資格

☆ 献金を扱う者は重責を担う

☆ 代表団、権限を委託されて遣わされる

- * パウロ、三人、一テトスと、おそらくルカとアポロー を指名

求められる資質

1. 16節 奉仕の心
2. 18節 救われてない魂に対する重荷
 - * 主にある働きの中でも優先すべきは福音宣教
3. 19節 神に栄光を帰したいとの願望
 - * ただ主に栄光を帰すことが働きの目的
 - * 献金を扱う者は、主に申し開きをしなければならないことをいつも銘記すべき
4. 21-22節 この世からの「公明正大」の評判
 - * この世にあっては周りの人の評価も重要
 - * 勤勉、信頼は遣わされる者にとって重要な資質
5. 23-24節 協調的な霊
 - * テトス、諸教会を代表するパウロの同労者
 - * パウロが遣わす代表団三人の訪問が、コリント教会にとって恵みを与える投機のチャンスになるように！との、パウロの願い

9章**供給と需要の天の掟**

☆ 神は私たちの贈り物/献金を必要とされない、では、なぜ、神に献げる必要があるのか？

- (1) 2-5節 私たちが与えることは他の人たちに、与えることを誘発する
- (2) 6-11節 私たち自身への祝福である
- (3) 12節 他の人たちの必要を満たす
- (4) 13節 神に栄光を帰す
- (5) 14節 神の民を一体にする

: 2 「私はあなたがたの熱意を知り…あなたがたの熱心は、多くの人を奮起させました」 :

- * パウロ、マケドニアの人々を誘発するために、コリントの人々のことを誇った
- * 同時に、コリントの人々を誘発するために、マケドニアの人々の恵みの実践に言及

: 4 「そうでないと…このことを確信していただければ、恥をかくことになるでしょう」 :

- * パウロ、神経質なほどこの世的に配慮
- * 献金を献げる計画を前もって立て、備えるべき

: 6 「私はこう考えます。少しだけ蔭く者は、少しだけ刈り取り…」 :

- * 信徒の贈り物は神の国への投資、信徒は入国に先立って前もって御国に送る

聖書

聖地の二つの海のたとえ

☆一つは「ガリラヤ湖」

★受けたものを移動、取り入れては放ち、回転させている

★その周りはどこも、生命、実り、満ち足り

☆もう一つは「死海」

★取り込んだすべてを保存、生命を枯渇させている

⇒ 神の恵みを生かすには、受けた恵みを流れさせること

： 9-10 「**蒔く人に種と食べるパンを備えてくださる方…神への感謝を生み出すのです**」：

★神、一すべての源— に何も与えることのできない私たち、
神の満たしに信頼、神に完全に依存する必要

： 12 「**なぜなら、この奉仕のわざは、聖徒たちの必要を十分に満たすばかりでなく…**」：

★信徒がキリストに献げるすべては霊的な「いけにえ」、祭司としての奉仕

→ ペテロ第一-2：5

： 13 「**あなたがたが自ら実証したこの奉仕のゆえに、人々は、キリストの福音に対するあなたがたの告白に伴う従順と、彼らやそのほかのすべての人たちと共有するあなたがたの寛大さに対して神をほめたたえるでしょう**」 (NIV)：

： 14 「**そしてあなたがたのための彼らの祈りの中で、彼らの心はあなたがたに注がれるでしょう。それは、神のこの上なく豊かな恵みがあなたがたに与えられているからです**」 (NIV)：

★キリスト信徒が神の恵みにあずかっていることを周りの人々が見ることは、
神の御国拡大に最大の実りを与える

お金について神の御目的

(1) 個々人に基本的な必要を提供

→ テモテ第一-6：8

☆神への日々の依存を樹立

☆主への愛が深まる

☆感謝の霊が育まれる

☆自分が持っているもので生きることを学ぶ

☆所有する喜び、満足を味わう

(2) 主にある人生のための資金

☆信仰とビジョンを築き上げる

☆人生の主がだれであるかを覚える

☆信徒を、人生の誘惑、畏から守り、忍耐を教える

☆信徒を真の富に集中させる

(3) キリスト者仲間を支援

→ ローマ人12：3-8

☆キリスト者を一体にする

☆自発的な感謝を起こさせる

☆与える能力を増加させる

十一献金

☆神が直に挑戦された要請

→ マラキ書3：8、：10

☆律法授与の前に制定

☆新約時代でも容認、確証

→ マタイ23：23

→ コリント人第一-9：13-14ほか

聖書

十一献金支持の理由

1. 十一献金受領は、創造者なる神の権利
2. 十一献金は貪欲への解毒剤
3. 信徒にとって、信仰のテスト
4. この世のすべての財政問題の解決策

実践的な示唆

- ☆十分の一を神に献げることで、すべてのものが神のもの、神から与えられたことを覚える
- ☆神からの資金はすぐに別の箱、あるいは、別の預金口座に分離する
- ☆資金の記録を取る
- ☆まず神に十分の一を戻した後初めて、
個々の信徒のイニシアティブによる「与えること」が始まる

10章

: 1-6 「私は…離れているあなたがたに対しては強気な者です…」 :

霊の戦い

- ☆神の国とこの世のはざまに立つ信徒の日々の戦い
- ☆キリスト信徒をユダヤ教へと引き戻そうとする信者たち、パウロを批判
- ☆キリストを高めることを目的としたパウロ、極力自分を前面に出すことを控えた
- ☆信徒は、霊の戦いを「肉の武器」で戦うことはできない
→エペソ人6: 10-18

: 4 「私たちの戦いの武器…要塞をも破るほどに力のあるものです」 (下線付加) :

- * 使用ギリシャ語は戦闘の意
- * 人々が抵抗の壁を築くのは、神の言葉の真理への反抗、挑戦

強力な霊の武器

- ①最も強力な霊の武器は謙遜、一神の視点から自己を見るとき生じる応答—
- ②神の言葉
- ③愛
- ④祈り

: 5-7 「私たちは…高ぶりを打ち砕き…キリストに服従させ…」 (下線付加) :

- * すべての思いを、キリストへの従順の下に取り押さえるとき、心の傷から完全に解放される
「あらゆる不従順を罰する」 (下線付加) :

- * パウロは、教会の全信徒がキリストに従順になるのを待つつもり

: 9 「私は手紙であなたがたをおどしているかのように見られたくありません」 :

- * パウロの目的は信徒を建て上げることで、破壊することではない

: 11-12 「そういう人はよく承知しておきなさい…」 :

- * もしパウロが真の使徒なら、権威を行使することで、彼らにそれを示すであろう
- * この世の評価は内的な変化より、人目につく外的な活動に置かれる
- * しかし、黙示録の七つの教会に対する主の評価に着目！
主の評価は、各教会自体の世俗的评价とは大違い！

: 14-18 「…私たちは、キリストの福音を携えてあなたがたのところまで行った…」 :

- * コリントに福音を伝播したのはパウロに反対するユダヤ人たちではなく、パウロ一行

神の御心を知る三つの問い

1. 14節 私は神が割り当てられた領域で奉仕しているだろうか？
2. 17節 神に栄光を帰しているだろうか？
3. 18節 主は私の働きをほかの人にも勧めてくださるだろうか？